

校報

編集・発行
 國學院大學久我山
 中学高等学校
 校報編集委員会
 杉並区久我山1の9の1
 電話 (3334) 1151 (代)

〔8・9月行事予定〕

- 8月
- 13~17日 学校完全休業日
- 18~24日 (高)3年朝昼講習(理科)
- 19~24日 夏期講習(後期)
- 29~9月1日 (中女)2年自然体験教室
- 9月
- 1~4日 (中男)2年自然体験教室
- 6日 (中)学力推移調査②
(高)3年総合バネッセマーク模試
(高)1・2年スタディサポート②
- 9日 (高)2年卒業生合格体験談
- 17日 環境美化の日(朝礼)
- 21日 中学校説明会①
- 24日 (中)体育祭練習会
- 27日 (中)体育祭
- 28日 高等学校説明会①

強く、たくましく、そしてしなやかに 女子部長 川本 ゆり子

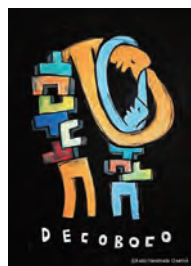


2024 KADO SIBARAKU
 WA_KONOMAMA©

最近、私が注目している画家の一人に門英彦さんがいる。2018年にはアニメ「キヤラとおたまじゃくし島」(Eテレ・NHK総合)の共同原作・キャラクターデザイナーを担当。2020年には日本初となるサインングストア (signing store) であるスターバックスコピー nonowa 国立店の店内アートを手掛けている。また、2022年フジテレビで放映されたドラマ「PICU 小児集中治療室」の病院セットも彼の作品である。

彼の作品の中心モチーフは手話である。手話を知らない人にとっては「ただのポップアート」としか思えないその作品の中に、手話が描かれ、彼のメッセージが込められている。そしてそれは TALKING HANDS というコンセプトにおいて、大きく展開されようとしている。

門さんは聾者の両親を持つコダー (Children of Deaf Adults) である。幼い頃、近所の人(聴者)が遊びに来ると、彼が両親と近所の人の中に入り通訳することがあったという。そのようなときに、両親、近所の人(聴者)が話し始める、彼がいなくとも会話が成立する場



2024 KADO DECOCOBO©

面に遭遇。それを見て、「すごいな!」と純粹に感じた。それは、「コミュニケーションは言葉や手話だけではない」ことを実感した瞬間であったようだ。門さんには、今年4月、国立青少年オリンピックセンターで行われた Global Leadership Workshop に来ていただき、「トークと小さなワークシヨップ」をお願いした。事前の打ち合わせはほんの短い時間であったが、肩肘を張らない自然体である門さんの語

らいは、とても居心地のよい空間であった。「人とのコミュニケーションは、ことばや手話、しぐさや表情、その人が醸し出す雰囲気、周りの空気、それらすべてで成り立っている」という門さんのことがそのまま体現されていた。門さんが手話をモチーフとした作品を描き始めたことにはきっかけがある。若き日に地元長崎の店舗の壁画を依頼されていたとき、聾者である父が制作途中の作品を見に来た。父はそのとき「絵が完成したら、壁画の前で聾者の友人みんなと待ち合わせしたいなあ。」と言ったという。この父のことばが門さんにインスピレーションを与える。聾者

の一人たちがこの絵の前に集う様子を頭に思い描く。聾者の人たちが絵を見て喜ぶ姿を想像する。そして、絵の中に手話を取り込むことが生み出された。ここが TALKING HANDS の原点となる。

私が門さんの作品に惹かれるのは、そのメッセージ性によるところが大きい。「Talk Together」という作品には「Sign Language Voice」の手話とともに Hug の手話が描かれ、「心に響くのは声だけじゃない。心をつなぐのは言葉だけじゃない」という思いが添えられている。この作品に代表されるように、門さんの作品には「ハグ」の手話が数多く登場する。親が子をハグするもの、友人同士がハグするものなど様々である。「Decoboko」という作品は「でこぼこのまま生まれ、でこぼこのまま抱きしめられる」姿が表現されている。「Kono mama」という作品では「倒れてしまいうようなときは、何も言わず寄りかかり合おう、しばらく

くはこのまま」と抱きしめられる姿が描かれている。私たちは今、とても複雑な社会を生きている。本当の多様性の追求はこれからだ。国籍・人種・言語・障がいの有無、そのようなものをすべて取っ払い、いろいろな人が共に生きていく社会の創造は未来に託されている。門さんが語る「コミュニケーションはことばだけではない」ことを深く胸に刻みつつ、だからこそなおさら、私たちはことばを大切に自分の内に育んでいく必要がある。手話も聾者の大切な言語である。日本語に文化や歴史があるように、手話にも文化と歴史がある。手話を一つの言語として、互いの言語を大切にする気持ちを育てていきたい。複雑な社会を生きていくためには、「強く、たくましく、そしてしなやかに」心が求められる。ときに自分を「ハグ」し、心を休ませながら、いろいろな人と共に生きていく社会をつくっていくことができたと思う。